

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年1月29日

【評価実施概要】

事業所番号	4590100162		
法人名	社会福祉法人芳生会		
事業所名	グループホームサンめいと		
所在地	宮崎県宮崎市大瀬町3190番地 (電話) 0985-41-0408		
評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2番22号		
訪問調査日	平成21年12月11日	評価確定日	平成22年1月29日

【情報提供票より】 (平成21年11月22日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)19年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤7人, 非常勤3人, 常勤換算8.2人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	600 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(平成21年11月22日現在)

利用者人数	9名	男性 1名	女性 8名
要介護1	3	要介護2	2
要介護3	2	要介護4	1
要介護5	1	要支援2	0
年齢	平均 87歳	最低 78歳	最高 94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	たなか内科、増田病院、希望ヶ丘歯科医院
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

宮崎市の中心地より西方の郊外で、緑豊かな高台の閑静な環境の中にホームは立地している。併設して介護老人福祉施設、デイサービスセンター、ケアハウスがあり連携して運営されている。まだ開設して歴史の浅いホームであるが、運営者は人材育成に力を入れ、法人内・外の研修に職員を積極的に参加させ資質の向上を図り、職員による心のこもったケアが実践されている。また、訪問看護や介護相談員を受け入れ、地域の中で利用者が安心して暮らし続けることが出来るよう、熱い思いでサービス向上に日々取り組んでいる。職員の温かいケアに支えられ、利用者の表情は明るく全員元気に暮らしている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	改善計画シートを作成し、具体的な改善に取り組んでいる。重度化した場合の対応については、家族にアンケート調査を行い方針の共有に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価の意義やねらいについて話し合い、理解したうえで全員で取り組み、サービスの質の向上に生かしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、地域包括支援センター、民生委員、家族の代表等が参加して2か月に1回開催している。会議では運営状況の報告や夏祭りについての意見交換等を行い、その結果を運営に生かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の来訪時に出来るだけ声をかけ、意見や不満を表せる雰囲気づくりに努めている。また、介護相談員を受け入れ、外部者へ意見や不満を表せる機会づくりに取り組んでいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域で行われる風船バレーやコーラス隊に職員と一緒に参加したり、ホームの夏祭りに多くの地域の人々が参加して地元との交流を深めている。また、職員も地域の行事にできるだけ参加して地域との交流に努めている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人全体の理念をホームの理念としていたが、職員全員で話し合い、地域密着型サービスとしてのホーム独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月のミーティングで、自らつくりあげた理念を全員で共有し、日々実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域で行われる風船バレーやコーラス隊に職員と一緒に参加したり、ホームの夏祭りに多くの地域の人々が参加して地元との交流を深めている。また、職員も地域の行事にできるだけ参加して地域との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は評価の意義やねらいについて話し合い、理解したうえで全員で取り組み、サービスの質の向上に生かしている。また、外部評価は改善計画シートを作成し、具体的な改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、地域包括支援センター、民生委員、家族の代表等が参加して2か月に1回開催している。会議では運営状況の報告や夏祭りについての意見交換等を行い、その結果を運営に生かしている。	○	自治会への働きかけにより、運営推進会議に地域の代表を加え意見や情報交換等を行うことで、さらに充実した会議となることを期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村や地域包括支援センターが主催する研修会等には、積極的に参加して交流している。また、運営上の課題等についても相談できる関係を築いている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の来訪時に利用者の健康状態や暮らしぶり等を詳しく報告している。また、2か月に1回、外食や外出の様子を写真を添え、金銭出納明細とともに家族に報告している。	○	定期的なホーム便りの発行を検討中とのことであり、よりよいサービスの向上に生かすためにもぜひ実現されることを期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時にできるだけ声をかけ、意見や不満を表せる雰囲気づくりに努めている。また、介護相談員を受け入れ、外部者へ意見や不満を表せる機会づくりに取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、職員の離職や異動を最小限に抑える努力をしており、離職や異動は少なくなじみの関係が保たれ、利用者は安心して生活している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画を立て、職員を段階に応じて研修に参加させている。また、法人内でも毎月勉強会を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に毎回参加して、勉強会や情報交換を行い交流を深めている。また、地域内のグループホームとも交流を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に本人や家族にホームを見学してもらったり、家族の要望や利用者の生活歴を聴く機会を設ける等、信頼関係を築きながら徐々になじめるよう家族と相談しながら対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	月に2回、利用者と職員と一緒に料理やおやつ作りをしたり、花の手入れ、洗濯物たたみ、掃除等、楽しみながら相互に支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式のアセスメントを採り入れ、利用者の思いや暮らし方の希望の把握に努めている。また、家族や関係者からの情報も活用している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員全員で利用者一人ひとりの課題やケアのあり方について検討し、本人や家族、関係者の意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月に1回モニタリングを行うとともに、介護計画は3か月に1回見直しを行っている。また、状態に変化がある場合は随時見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の要望や状況に応じて、通院や外泊、墓参り、外出等、柔軟に支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの利用者が協力医を掛かりつけ医としており、受診や気軽に相談が出来る体制が築かれている。また、訪問看護ステーションと契約し、週1回の訪問と24時間いつでも連絡がとれる体制が出来ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応については、利用開始時に一応の説明は行っているが、具体的な話し合いは行っていない。家族へのアンケート調査を行い、今後の取り組みについて検討している。	○	利用者の高齢化が進んでおり、重度化した場合の対応について、本人や家族、掛かりつけ医、職員、その他関係者と十分話し合い、終末期のあり方について全員で方を共有してほしい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	ミーティング等でプライバシーを損ねるような声かけや対応がないように話し合い、職員間で確認しあっている。また、勉強会等で個人情報保護法の理解に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームとして1日の基本的な流れはあるが、利用者一人ひとりのペースにあわせ、希望や思いに配慮しながら、その人らしく自由に暮らせるよう柔軟に支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の力の範囲で、買物、配膳、後片づけ等を職員と一緒にやり、同じテーブルを囲んで楽しく食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は利用者の希望やタイミングに合わせて、自由にいつでも入浴が出来るように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除や洗濯物たたみ、ゴミ出し、買物、畑仕事、風船バレー、コーラス等、利用者の力量に応じて日々楽しく過ごせるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日、敷地内の観音様参りとゴミ出しを兼ねた散歩、買物、たまには外食等、できるだけ戸外に出かけられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関や居室には鍵をかけていない。職員は鍵をかけることの弊害を理解している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、夜間を想定した防災訓練を併設の特別養護老人ホームと協力して行っている。また、毎月通報訓練を行っており、マニュアルも整備している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量は毎日チェック表で管理し、利用者の好みや希望を採り入れたバランスの良い食事の内容となっている。併設の特別養護老人ホームの栄養士が献立表を作成している。		
1. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の生活空間は、全体的に広々とした余裕のある造りで、リビングにはソファがおかれ、窓からは日ざしが室内を明るく暖かくしている。壁には季節に応じた飾りつけがあり、利用者が居心地よく過ごせるように工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはタンス、仏壇、写真、テレビ、使い慣れた日用品等が持ち込まれ、利用者が安心して居心地よく過ごせるよう工夫をしている。		

※  は、重点項目。